

LS14地方

受験番号

2014年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験 刑法・刑事訴訟法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページまでである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は刑法と刑事訴訟法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 刑法

【問題】

以下の〔事例〕を読んで、〔設問〕に答えなさい。

〔事例〕

Xは、暴走族仲間で日頃からいろいろと面倒を見てもらっている年長のYから、「ついて来い」と言われ、出かけたところ、とある閉店後の商店の裏口で「ここで見張っている。だれかが来たら大声で知らせろ」と言われたので、Yは無人の店舗に忍び込んで何か盗む気だなどは思ったものの、断ると何をされるか分からず、嫌々ながらも言われるままに店舗の裏口付近で見張りをしていた。しばらくして、Yが裏口から手提げ金庫を持って飛び出してきたので、XはYと一緒に逃げて、Xが事情を聞くと、Yは、手提げ金庫を盗んだ後で警備員に見つかり、格闘になったので警備員の顔面を殴って逃げたと知らされた。

〔設問〕

XとYの罪責について論じなさい。

以上

専門論文試験 刑事訴訟法

【問題】

以下の項目，用語ないし原理などについて，簡潔に説明せよ（なお，判例を前提にする）。

- (1) 緊急逮捕の要件と手続について
- (2) 逮捕に伴う搜索差押について
- (3) 公判前整理手続の意義について
- (4) 自白の補強法則について